

実践報告

児童が自ら創造しようとする図画工作科の授業づくり
－図画工作科と国語科の教科横断的な学習－

島崎 智朗*

Creating Lessons in the Art and Crafts Department
that Children Try to Create by themselves :
- Cross-curricular learning of drawing and crafts and Japanese language -

Tomoaki SHIMAZAKI

【要約】

児童が自ら創造しようとする図画工作科の授業づくりを目指し、児童にとって必要感のある題材設定と、児童が個性を発揮できるような学習環境の工夫を行う。

【キーワード】 必要感のある題材設定、学習環境の工夫

【概要】

本報告の題目にある「自ら創造しようとする」とは、児童が主体的に造形活動に向かい、発想や構想、技能を連続させながら自分なりの表現を探究していく姿である。そのためには、題材が児童にとって必要感のあるものでなくてはならない。そこで、題材設定において、発想や構想の場を図画工作科の授業内にとどめず、他教科の学習内容や児童にとって身近な生活の中から展開していくことで、必要感のある題材となるようにする。さらには、児童一人一人が、自分の個性を発揮して造形活動ができるような学習環境を設定することも必要である。決められた材料や用具だけではなく、様々な材料や用具を試すことができるように学習環境を工夫することで、児童が表したいことに合わせて表現方法を選択できるようにする。児童が個性を発揮して自分なりの表現を探究することで、「自ら創造しようとする」態度が養われると考える。

以上のことを踏まえて、以下の実践を行った。

*佐賀大学教育学部附属小学校

小学校第3学年2組 図画工作科学習指導案

【日時】令和3年11月4日(木)10:15～11:00 【場所】図工室 【指導者】島崎 智朗

本授業の主張点

児童が自ら創造しようとする造形活動にするために、国語科の学習内容と関連付けることで、児童にとって必要感のある題材にします。また、表したいことに合わせて、形や色、表現技法を様々な工夫することができるような学習環境を設定し、進んで表現しようとする児童の姿を目指します。

1 題材名 絵から広がる物語

2 題材の構想

(1) 題材について

本題材は、物語のお気に入りの場面や登場人物の心情を、形や色、表現技法などを工夫しながら、想像を広げて絵に表す活動である。国語科「たから島のぼうけん」で、児童は、場面の様子や登場人物の心情を考えて物語の創作に取り組んでいる。これまでの生活経験から、自分が書いた物語を一冊の本として完成させたいと思う児童は多いだろう。一冊の本にするためには、表紙や挿絵が必要となり、そこに造形活動を行う必然性が生まれる。児童は、自分の思いを基に発想を展開し、一冊の本を完成させたいという目的意識をもつことで、必要感をもって造形活動に取り組むことができるだろう。そして、形や色、表現技法を様々な試しながら、表紙の絵に表したい場面の様子や登場人物の心情に合わせて表現を工夫することができると思う。扱うことのできる材料や用具が広がり、様々な表現技法を身に付けてきたこの時期に、自分のイメージに合った形や色、表現技法を見付け、表現することができたという達成感や、絵に表すことで物語の雰囲気がより伝わるようになったという実感、自分の作品を多くの人が見てくれたという喜びを味わうことは、次の造形活動や楽しく豊かな生活を創造しようとする態度につながると考える。

(2) 児童について

本学級の児童は、造形活動への意欲が高く、進んで自分の思いを表現しようとする児童が多い。5月に実践した「エリック・カールの絵を描こう」では、題材から発想を膨らませ、形や色、材料の特徴に着目し、これまでに身に付けた技能を生かしながら、絵に表す活動を楽しむことができていた。また、10月に実践した「いろんな表現、いい感じ」では、スパッタリングやドリップング、吹き流しなどの様々な表現技法を組み合わせながら絵に表すことを経験してきている。さらに、毎週1回の学級タイムにおいて、絵画の比較鑑賞や、絵本の表紙を鑑賞する活動に取り組んでいる。特に、絵本の表紙の鑑賞では、「明るい色がたくさん使っているから、楽しい内容の絵本だと思う」「手をつないでいる絵が描いてあるから友情を表しているんじゃないかな」など、表紙の絵から物語の内容を想像することができる児童も増えてきている。

一方、授業において、活動を楽しむことだけで満足してしまい、自分の思いを十分に作品に込めることができない児童もいる。本題材では、活動を楽しむことはもちろん、様々な表現方法を試しながら自分の表現を探究し、粘り強く学習に取り組む児童の姿を目指していきたい。

(3) 指導について

国語科で書いた物語から発想し、一冊の本にしたいという児童の思いを大切にすることで、児童が造形活動への必要感をもつことができるようにする。まずは、表紙の絵のイメージマップを作成

することで、表したい場面の様子や登場人物の気持ちを明確にし、それに合う形や色、表現技法を考えることができるようにしたい。また、児童が形や色、表現技法を自由に試すことができるような学習環境の工夫を行い、一人一人の個性が発揮できるようにする。必要に応じて物語を読み返したり、友達にアドバイスしてもらったりするなどの活動を取り入れ、表したいことに合った表現に近づけることができるようにしたい。終末には、国語科で書いた物語と合わせて一冊の本にする。その上で鑑賞活動を行い、自他の造形活動を認め合う場面としたい。そして、図書室などの多くの人に見てもらえる場所に展示することで、児童の身近な生活へとつなげていきたい。

3 題材の目標と評価規準

(1) 題材の目標

物語を基に、場面の様子や登場人物の心情を絵に表すことについて、様々な表現方法を試しながら自分の思いに合った表現を探究することができる。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 絵に表すときの感覚や行為を通して形や色の感じがわかり、水彩絵の具やパスなどの用具を適切に扱うとともに、スパッタリングやドリップリングなどの経験を生かし、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 物語から想像したことを基に表したいことを見付け、形や色などを生かしながらどのように表すかについて考えている。 作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、見方や感じ方を広げている。 	<ul style="list-style-type: none"> つくりだす喜びを味わい、想像を広げて進んで絵に表す活動に取り組もうとしている。

4 題材の指導計画（全4時間 本時2／4時間目）

時	主な学習活動（○）	指導上の留意点（・）	評価規準（◆）【観点】
1	<p>○場面の様子や登場人物の気持ちなどを基に、物語の表紙の絵に表す形や色などを考え、イメージマップに表す。</p> <p>○形や色、表現技法を様々な試し、イメージに合った表し方を見付ける。</p> <div data-bbox="212 1653 598 2022"> <p>イメージマップ</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 自分で書いた物語から発想し、場面の様子や登場人物の心情を基に表紙に表したい絵を考えることで、活動への思いを高める。 形や色、表現技法を様々な試すことができるように、学習環境を工夫する。 <div data-bbox="614 1675 1029 2022" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>準備する表現技法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スパッタリング ・ドリップリング ・コラージュ ・吹き流し ・スタンプリング </div>	<p>◆物語から表したいことを見付け、表紙にどのように表すかについて考えている。</p> <p>【思・判・表】</p> <p>◆形や色、表現技法を様々な試しながら、進んで活動に取り組もうとしている。 【主】</p>

2 本 時	<p>○表したいことに合わせて、形や色、スパッタリングやドリップングなどの表現技法を工夫して表紙の絵を描く。</p> <p>○形や色、表現技法を選び、組み合わせることで、自分のイメージする表現に近づける。</p>	<p>・児童が、表したいことに合った形や色、表現技法を選ぶことができるように、児童の活動の様子や気づきを掲示し、学びを共有できるような学習環境を工夫する。</p> <p>・児童の思いを引き出し、活動意欲を高めるために、称賛や共感の声掛けを行う。</p>	<p>◆表したいことに合わせて形や色、表現技法を選び、工夫して表している。 【知・技】</p> <p>◆自分のイメージする表現に近づけようと、進んで絵に表す活動に取り組んでいる。 【主】</p>
3	<p>○友達の作品を見たり、意見交流をしたりすることで、より自分のイメージに合った表現に近づける。</p> <p>○国語科で書いた物語と合わせて、一冊の本を完成させる。</p>	<p>・迷っているところなどについて、友達の作品を見たり、友達にアドバイスをもらったなどの交流の時間を設け、自分のイメージに合った表現を探究できるようにする。</p>	<p>◆友達の作品の造形的なよさについて、感じ取ったり考えたりし、見方や感じ方を広げている。 【思・判・表】</p> <p>◆友達の作品や意見を参考に、より自分のイメージに合う表現へ近づけようとしている。 【主】</p>
4	<p>○友達に自分の作品を紹介したり、友達の作品を鑑賞したりして、作品のよさを見付ける。</p> <p>○どこに展示するとたくさんの人にってもらえるかを考え、展示をする。</p> <p>○活動の振り返りをする。</p>	<p>・自他の造形活動のよさを認め合うことで、見方や感じ方を広げ、造形的な価値を実感することができるようにする。</p> <p>・図書室など、多くの人の目に触れる場所に展示することで、児童の身近な生活とつなげる。</p>	<p>◆自他の作品の造形的なよさについて、感じ取ったり考えたりし、見方や感じ方を広げている。 【思・判・表】</p>

5 本時の指導(2 / 4)

(1) 指導目標

場面の雰囲気や登場人物の気持ちを絵に表すために、形や色、表現技法を選び、工夫しながら、表したいことに合わせて表現をすることができるようにする。

(2) 評価規準

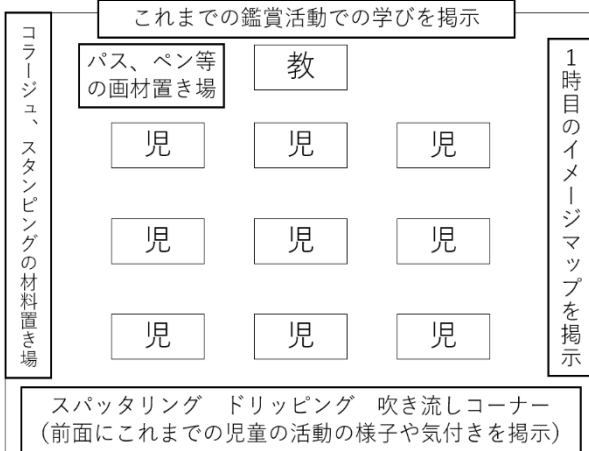
ア 表したいことに合わせて形や色、表現技法を選び、工夫して表している。 【知・技】

ウ 進んで絵に表す活動に取り組み、自分のイメージする表現に近づけようとしている。 【主】

(3) 「造形的な見方・考え方」を働かせるための手立て

本時の授業における「見方・考え方」を働かせている姿を、「自分が選んだ形や色、表現技法に対して、納得したり、新たな表現を試したりしながら、自分のイメージする表現に近づけること」と捉えている。そのために、多様な用具や表現技法の場を設定したり、これまでの学びを共有できる場を設定したりするなどの学習環境の工夫を行い、自分の表したいことに合った形や色、表現技法を選び、工夫して表現をすることができるようにする。また、称賛や共感の声掛けを行うことで、児童の思いを引き出し、活動を価値付けるようにする。

(4) 展開

学習活動と児童の反応 (□)	教師の働きかけと形成的評価 (◆)
<p>1 学習の見通しをもち、めあてを立てる。</p> <p>・前の時間にいろいろなことを試して、表したいことに合った形や色が見つかったよ。</p> <p>・表紙を描いたら、ぼくだけの本ができるぞ。</p>	<p>1-(1) 本時の見通しをもつことができるように、前時の活動を想起する。</p> <p>1-(2) 本時のめあてをもち、活動意欲が高まるように、数名の児童の物語への思いと前時で試した表現を紹介する。</p>
<p>めあて 形や色、表現技法を工夫して物語の表紙の絵をえがこう</p>	
<p>2 形や色、表現技法を工夫して絵に表す。(35分)</p> <p>学習環境の工夫</p>  <p>これまでの鑑賞活動での学びを掲示</p> <p>パス、ペン等の画材置き場</p> <p>教</p> <p>児</p> <p>児</p> <p>児</p> <p>児</p> <p>児</p> <p>児</p> <p>児</p> <p>1時目のイメージマップを掲示</p> <p>スパッタリング ドリッピング 吹き流しコーナー (前面にこれまでの児童の活動の様子や気づきを掲示)</p>	<p>2-(1) 表したいことに合った形や色、表現技法を選び、組み合わせながら表現することができるようにするために、絵の具やパスなどの用具、表現技法の場を設定する。また、これまでの学びを共有できるような掲示を行う。</p> <p>2-(2) 活動の参考となるように、全員分のイメージマップをテーマごとに掲示しておく。</p> <p>◆ 表したいことに合った形や色、表現技法を見付けているか。(活動の様子) 【知・技】</p> <p>○ 表したいことに合わせて、形や色、表現技法を選んでいく。</p> <p>→ 物語の内容や表したいことを尋ね、前時の活動を振り返りながら表したいことに合った表し方を一緒に考える。</p>
<p>・友情がテーマだから、あたたかい感じがするオレンジ色やピンク色を多く使うよ。</p> <p>・主人公の嬉しい気持ちを表現したいから、主人公の表情を工夫するよ。</p> <p>・勇気を表現したいから、勢いよくスパッタリングをしよう。</p> <p>・学級タイムで鑑賞した絵本は文字にも工夫がしてあったな。文字も工夫してみるといいかも。</p> <p>・イメージと何か違う感じだな。もっとイメージに合う形や色があるかもしれないな。</p> <p>・同じテーマの友達はどんな風に描いているのかな、友達の考えも聞いてみたいな。</p>	<p>2-(3) 思いを引き出したり、活動意欲を高めたりするために、それぞれの児童に称賛や共感の声掛けを行う。</p> <p>2-(4) 活動が広がるように、イメージマップにはないアイデアを加えてもよいことを伝えたり、児童の表現を全体で紹介したりする。</p> <p>◆ 自分のイメージする表現に近づけるために、進んで絵に表す活動に取り組もうとしているか。(活動の様子) 【主】</p> <p>○ 自分のイメージする表現に近づけるために、形や色、表現技法を選びながら、絵に表そうとしている。</p> <p>→ 同じテーマの友達の活動や思いを紹介し、より自分の表したいイメージに近づけたいという意欲を高める。</p>
<p>3 振り返りをし、次時への見通しを立てる。(5分)</p> <p>・表したいイメージに近づけることができています。</p> <p>・何色にするか迷っているところがあるから、友達の考えを聞きたいな。</p>	<p>3-(1) 振り返りを記述することで、次時への見通しをもつことができるようにする。</p> <p>3-(2) 様々に表し方を試す姿を称賛し、活動を価値付けることで次時への意欲につなげる。</p>

(5) 指導の実際

1) 必要感のある題材設定

国語科「たから島のぼうけん」は、場面の様子、登場人物の行動や気持ちが読み手に伝わるように、言葉や段落相互の関係に気を付けて物語を創作する学習である。「たから島のぼうけん」の第1時目において、児童と共に単元の学習計画を立てる活動を行った。その際、児童から、ただ物語を書くだけでなく、挿絵や表紙を描くことで一冊の本に仕上げたいという声があがった。本学級では、朝の時間を活用して絵画や風景写真、絵本の表紙の鑑賞活動を行っており、児童の意識の中にこの活動での学びが生かされたと考える。そこで、図画工作科で「絵から広がる物語」の題材を設定した（図1）。

児童は、自分の思いを込めた物語から表紙の絵を想像し、一冊の本を完成させるという目的をもつことで、造形活動に必要感をもつことができていた。また、読み手を意識した表紙を描きたいという思いから、「どのような構図や色遣いにすれば手に取ってもらえるかな」「物語の雰囲気を表すためにはどういう形や色が合っているかな」など、活動中に造形的な見方・考え方を働かせることにつながったと考える（図2）。

題材の終末では、「たくさんの人に読んでほしい」「友達の本を読んでみたい」という児童の思いから、互いの本を鑑賞する活動を設定した。児童は物語の内容と共に、その内容に合わせた表紙の絵の工夫を見付けることができていた。同じ思いをもって活動に取り組んだからこそ、友達の表現のよさに気付くことができたのだと考える（図3）。さらに題材終了後は、貸出カードを準備して互いの本の貸し借りができるようにした。この活動は児童の身近な生活と図画工作科の授業をつなげることを意識したものである。児童は、自分の作品が友達に読んでもらえることで達成感を感じることができていた。

2) 学習環境の工夫

児童一人一人が、自分の個性を発揮して造形活動ができるような学習環境を設定するため、スパッタリングやドリップング等の表現技法ごとに用具の場所を分けたり、アクリル絵の具やパス、マジック等の描画材を様々に準備したりすることで、児童が自分の思いを試しながら納得のいく表現をすることができるようにした（図4）。そのことで、様々な形や色、表現技法を試しながら、自分の思いに合

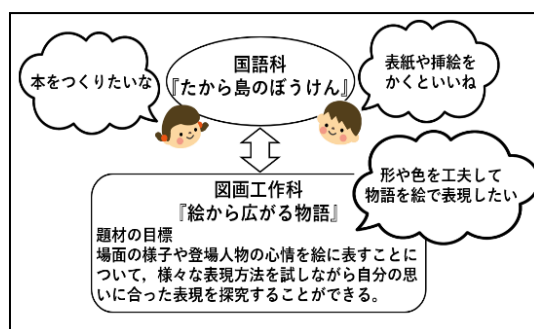


図1 国語科からの題材設定



図2 児童のアイデアスケッチ



図3 表紙のよさに気付く児童



図4 表現技法と学びの足跡

った表現を見付けようとする児童の姿が見られた。さらに、活動中には、「この色の方が物語の雰囲気合っているから、色を変えてみよう」「思っていた感じと違うから、別の表現技法を試してみよう」というように、より自分の思いに近づけようとする児童の姿も見られた。

また、活動の道しるべとなるような学習環境の工夫も行った。これまでの学びの足跡を壁面に掲示することで、児童が活動に迷った際の手掛かりとなるようにした(図5)。



図5 学びの足跡から活動のヒントを得る児童

さらに興味深かったのが、児童が友達作品からインスピレーションを受けて、表現を変えていく児童の姿である(図6)。アイデアスケッチが完成した次の日、全ての児童のアイデアスケッチを教室内に掲示していた。この児童は、友達のアイデアスケッチを参考にし、より自分に合った表現方法を見付けて構想を変えていったと考えられる。このように、学習環境の工夫により、児童が個性を発揮し、自分の思いに合った表現をすることができたといえるのではないだろうか。

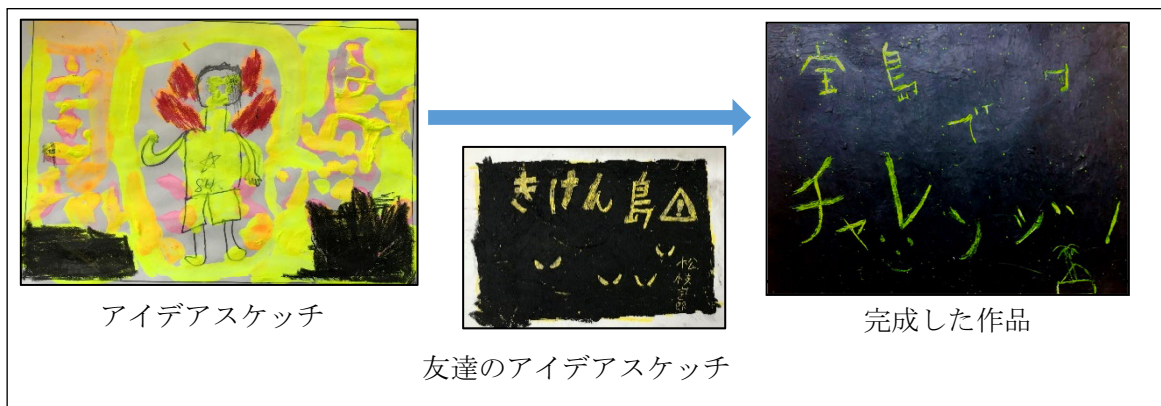


図6 友達の作品を参考にし、自分のイメージに近づけようとしている児童

6 まとめ

平成24年度小学校学習指導要領実施状況調査(図画工作)では、「図画工作科の学習が好きだ」という質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合は80.3%であった。一方、「図画工作の学習をすれば、ふだんの生活や社会に出て役立つ」という質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合は60.0%であり、「図画工作の時間に学習したことを、ふだんの生活の中にかかしていますか。」という質問に対しては、肯定的な回答は58.3%となっている。現在、STEAM教育の重要性が高まってきているが、児童にとっては図画工作科の学習が生活と関わっているという実感が薄いことが実情である。今後も、児童にとって必要感のある題材設定や学習環境の工夫といった視点から授業づくりを行い、図画工作科の学習が自分の生活を豊かにしているという実感を育て、自ら創造しようとする児童の育成を目指していきたい。